



権田愛三肖像写真（個人蔵）と麦踏みと麦秋（大久根茂氏 撮影）

# かわはく No.82

## CONTENTS

開催案内：令和6年度スロープ展示

「第75回全国植樹祭応援事業 川でつながる森と人」…………… 2

開催案内：春期企画展「麦の国さいたま」…………… 4

お知らせ：なりきり船頭さん ～船頭になって写真撮影をしよう～…………… 5

お知らせ：タイムスリップ?! むかしの仕事体験

～着物をきて粉ひきをしている写真を撮ろう～…………… 5

館長コラム：ミュージアムカフェ 教えて館長!

「博物館てなァ～に?」「全国いろいろ博物館」報告…………… 6

学芸員コラム：堤防はあって当たり前のモノ?!…………… 7

学芸員コラム：カビもプランクトン?! 水中で不思議な胞子をつくるカビ …… 7

イベント情報コーナー 4・5・6・7月…………… 8



## 開催案内

令和6年度スロープ展示

# 「第75回全国植樹祭応援事業 川でつながる森と人」

開催期間：2025年2月4日(火)～6月22日(日)

県西部には、県土の約3分の1を占める恵み豊かな森林が広がっています。その奥地にある甲武信岳を源流とし、県を横断して東京湾へ流れ出るのが、全長173kmの荒川です。かつて荒川は、秩父の山地で伐りだされた木材を運ぶ重要な搬送路でした。また、森林から供給される土砂や栄養分、森林が育んだ川の生きものは、川を経由して流域の人々の生活を支えてきました。

本展示では、荒川がつなぐ森の恵みと人の生活を写真パネルなどで紹介しています。第75回全国植樹祭埼玉県実行委員会との共催です。

### ○全国植樹祭とは

全国植樹祭は、国民の森林に対する愛情を培うことを目的に毎年開催されています。今年2025年5月25日に、秩父ミュージックパークにて第75回



## 第75回全国植樹祭

第75回全国植樹祭ロゴマーク

大会が開催されます。展示では、昭和34年4月5日に、寄居町の金尾山と旧林業試験場にて開催された第10回大会の様子も写真で紹介しています。

### ○川による木材搬送

秩父地域や飯能地域には山林が多く、伐りだした木材は荒川を利用して江戸へ流送され、町づくりに大きく貢献しました。

上流部の川幅が狭く、水量の少ない地域では、木組みのダム（鉄砲堰）で水をせき止め、一気に放水する勢いで木材を下流へ押し流す鉄砲流しが行われていました。一方、川幅が広く、水量のある地域では、木材を筏に組んで下流まで運んでいました。道路や鉄道の整備とともに衰退し、荒川では、鉄砲堰は大正時代から昭和20年頃まで、筏流しは昭和の始めまで行われていました。

展示では、鉄砲堰や筏場があった場所を地図で紹介しています。常設展示室に再現された鉄砲堰模型の実演解説とともに楽しみください。



平成8年に旧大滝村大山沢（現秩父市）に復元した鉄砲堰の放水の様子

### ○森が育む水と生き物

森林には、降った雨を蓄え、川への流出量を調整し、水質を浄化する機能があります。この機能を目的として県の森林総面積の約3割が、水源涵養保安林に指定され、管理されています。その内の1か所、県民の森（横瀬町）のスギ林と広葉樹林の土壌標本をリバーホールにて展示しています。

また、日本には古くから、沿岸や上流の森林が魚など水産生物の生息と繁殖に深くかかわっているという考え方がありました。その考え方を継承した魚つき保安林が、海なし県には珍しく、中津川渓谷の一部にあります。当地の魚の生息を助けることを目的に指定されています。



土壌標本（左から2、3本目が県民の森の標本）

### ○川が運んだ養分を利用した農業

荒川下流部の大宮台地の西縁部では、河川敷の土を畑に運び込む「ドロツケ」が毎年行われていました。伝統的な畑の土壌改良法の一つです。毎年のように洪水によって上流から運ばれて河川敷に堆積する土には、養分となるリンも豊富に含まれており、これを良質な土として馬に積んで畑に運び入っていました。



## ○樹の恵み

河川周辺に生育するトチノキは、秩父地域で郷土料理に用いられてきました。葉でもち米などを包んで蒸したツツッコと、蒸した実をもち米と一緒についたトチ餅です。トチの実は保存が効きますが、アクが強く、下処理に大変な手間と時間がかかります。地域によっては川に沈めてあく抜きを行っていました。



ツツッコづくりの様子

本展示に合わせて、関連展示や各種イベントも開催しています。

## ○蔵出しコーナー「描かれた木材搬送」

開催期間：2025年2月4日(火)～6月22日(日)

会場：本館常設展示室1階

荒川・隅田川が描かれた浮世絵には、木材搬送の様子が描きこまれているものがあります。歌川広重の連作「名所江戸百景」には、背景に描かれた隅田川を進む筏や、その終着点であった木場などが描かれています。筏だけではなく、積み荷を運ぶ荷船や人を運ぶ渡し船なども見られ、川が当時の交通や産業の要であったことがうかがえます。「木材搬送図解」には、上流で木材を伐りだし、川を利用して下流まで運ぶ様子が場面ごとに描かれ、鉄砲堰を放水する様子も描かれています。



「木材搬送図解」

## ○体験型セルフガイド「はなもく散歩」

本展示に合わせて、敷地内の約50種の樹木に樹名板を設置しました。樹名板に掲載されたQRコー

ドをお手持ちの端末で読むことで、音声ガイドやクイズが楽しめ、樹木の花や葉などの各部位、人との関わり、関係する生き物などについて学ぶことができます。なお、WEBページは館外でもアクセスして見るすることができます(下記QRコード)。



はなもく散歩のQRコード

## ○ネイチャートンネル

常設展示室への入口部分では、埼玉の森と樹木をテーマに写真を展示しています。

## ○イベント「かわはくの樹名板をつくろう！」

葉や実を観察しながら樹木について学び、オリジナルの樹名板をつくります。作成した樹名板は、かわはくの樹に設置します。



日時：4月27日(日)

①10:00～12:00 ②13:30～15:30

場所：ファミリー広場

定員：各回20名(要事前申込)

参加費：300円

講師：NPO法人リトカル

## ○イベント「かわはくで樹木ラリー！」

内容：樹名板のQRコードを利用してクイズラリーを行います。

日時：4月29日(火・祝) 10:00～16:00

場所：ファミリー広場

参加費：無料

## ○イベント「木のおもちゃづくり」

内容：県の木材を使ってモビールを作ります。

日時：6月8日(日)

①10:30～12:30 ②13:30～15:30

場所：ふれあいホール

定員：各回6名

(要事前申込)

参加費：5,000円

講師：Buchen

ぶーへん佐藤正人氏

(学芸グループ 三瓶ゆりか)





## 開催案内

# 春期企画展「麦の国さいたま」

開催期間：2025年2月8日(土)～5月6日(火・振休)

埼玉県は麦（4種）の収穫量が全国8位、消費については和風めんの出荷額が全国1位（R5年統計）と麦の生産・消費が盛んな県です。米について私たちの食を支える麦。そんな「麦」を、種類・歴史・農法・民俗行事・食品・食以外の利用などについて多角的に紹介します。埼玉県の麦づくりに深く関わり麦翁と呼ばれた権田愛三や、麦栽培に使用された民具「フリコミジョレン」についても詳しく紹介します。

また、昨年12月に噴水広場前にミニ畑をつくって播種した麦が、3度の麦踏みを経て成長しています。是非ご確認ください。



かわはく園内のミニ小麦畑（3月7日撮影）

## 講演会「麦翁 権田愛三」開催報告

3月2日(日)に権田愛三の玄孫にあたる権田宣行氏をお招きして講演会を実施しました。定員数ちょうど50名が集まる盛況な会となりました。

前半は、平成4年に埼玉県が製作したテレビ番組「埼玉麦物語」を上映しました。映像内では、約30年前の宣行氏や熊谷市内で麦生産をしている農家へのインタビューがあり、また県内産の麦を使用した醤油や乾麺の工場の様子が取材されていました。醤油工場は、現在は撤退している場所であり、当時のことを知るための貴重な記録映像となっていました。当時の埼玉県内での小麦の収穫量は38,600トンであり、令和3年の20,000トンと比べるとおよそ2倍の規模となっていました。県内の麦文化には、30年間のうちに変化した部分と、変わらぬ部分があることがよくわかる映像上映となりました。

次に権田宣行氏に、権田愛三の生涯と功績についてお話ししていただきました。

愛三の活動の後ろには、妻であるムラの内助の功があったこと。虚飾を嫌い質素な身なりをしていたために講演旅行の宿泊先で納戸のような部屋に通されて招待者が慌てたという笑い話があったこと。話は得意ではなかったものの、それがかえって農家の信頼を得ることに繋がったこと。そうしたご子孫だからこそ知っているエピソードの数々をお話しいただきました。これらのエピソードからは、愛三が誠実な人柄であったことが伝わってきました。



権田宣行氏によるご講演のようす

## レストランと合同企画～小麦フェア～開催

かわはくレストラン「ウォーターミル」では企画展開催に合わせて、3月19日まで、地域の郷土料理である煮ぼうとう（おっきりこみ）を提供しました。雪の日もあった寒い時期にぴったりのあたたまる味でした。また小豆ねじは引き続き提供しています（5月6日まで）。まだの方は是非！



荒川 汐！煮ぼうとうと小豆ねじのセット

（学芸グループ 森圭子・矢嶋正幸）



## お知らせ

# なりきり船頭さん ~船頭になって写真撮影をしよう~

本館第一展示室には、大きな帆掛け船「荷船」が展示されています。荷船とは、主に江戸時代から明治時代にかけて、荒川をはじめとする河川を利用して荷物を江戸から農村へ、農村から江戸へと輸送していた船のことです。

その船の舵を取っていたのが、「船頭」と呼ばれる人です。船頭は船の中の「セジ」と呼ばれる部屋で生活をしていました。セジは船の大きさにもよりますが、2畳ほどの大きさでした。その中に、布団や鍋、釜などの道具類を入れて、ごはんを食べたり寝たり、時には酒盛りもしていました。

冬には火鉢を入れ、夏には蚊帳を吊り、船の上でも陸とさほど変わらない生活をしていました。

そんな船頭は、「棹は三年櫓は三月」といわれるように、船を一人前に操るにはそれなりの修業が必要な仕事でしたが、当時の農家の主食が麦飯だったのに対し、船頭は白米が食べられる、という理由で人気の職業でした。

現在、荷船の展示では船頭の衣装である竹笠を被り、法被（はっぴ）を着て、写真を撮ることができます。また、毎日11:30/13:30/15:30には荷船の展示解説を行っています。その際は、スタッフが船頭になりきって解説をします。こちらもぜひ、ご覧ください。



なりきり船頭さん

荷船の展示解説

(交流員グループ 神保敏子)

## お知らせ

# タイムスリップ?!むかしの仕事体験 ~着物をきて粉ひきをしている写真を撮ろう~

春期企画展「麦の国さいたま」に合わせ、石うすを使った小麦の「粉ひき体験」を行っています。

本館1階のリバーホールには、昭和初期頃の県北地域の台所をイメージしたコーナーを設置し、直径16cm、重さ約10kgの小型の石うすを用意しました。企画展示室には、当時使われていた直径40cmほどの石うすがありますが、その半分ほどの大きさです。昔の生活の雰囲気味わってもらうため、当時の子どもが普段着として着ていた着物も用意しました。

いつもは、ただ挽き手を握ってゴロゴロと回してもらっただけですが、不定期で小麦の実を石うすに入れ、挽いてもらう体験も行っています。石うすは、ただ回すだけでも重いので力が必要ですが、実際に小麦を挽くとすると、思う以上に力が要ります。小麦の実は少しずつしか石うすに入れられないので何度も何度も回す必要があります。

この粉ひき体験コーナーは、あらゆる年齢層の

お客さまにお楽しみいただいております。子どもたちばかりでなく、大学生や高校生くらいのお客さまも家族と写真を撮りあいながら、石うすを回して楽しんでいました。

粉ひき体験コーナーは、5月6日（火・振休）までの予定です。ぜひ、企画展と合わせて体験してみてください。



(広報企画担当 若目田葉子)



## 館長コラム

ミュージアムカフェ 教えて館長!

# 「博物館てなあ〜に?」「全国いろいろ博物館」報告

開催日：2025年2月24日(月・振休) / 3月1日(土)

埼玉県立川の博物館（以下、かわはく）が開館して26年がたちました。そもそも博物館とは何でしょうか。博物館は何のために活動しているのでしょうか。そんな疑問に答え、皆さんの博物館に対する関心と理解を深めることを目的に、今回初めてミュージアムカフェを開催しました。

今回のミュージアムカフェは、お茶やお菓子を飲みながら、食べながら博物館について気軽におしゃべりをするイベントです。第1回（2月24日）は「博物館てなあ〜に?」と題して主に博物館の範囲や歴史などを話題にしました。博物館に似た施設で、美術館、水族館、動物園、植物園、図書館、博覧会、テーマパークなどがありますが、これらが博物館の仲間なのかという質問から始まります。質問から議論を重ねることで博物館の特徴と役割が見えてきます。参加者、当館職員それぞれの博物館に対するイメージ、考え方が微妙に異なっていて興味深かったです。

さて、近代博物館の誕生において大英博物館の歴史は欠かせません。現在の大英博物館 (British Museum) と大英自然史博物館 (Natural History Museum) のコレクションの基礎を作ったのが医者ハンス・スローンです。当時薬として苦いカカオを飲んでいましたが、彼はそれを改良し、飲みやすいホットチョコレートのレシピを開発しました。その歴史にちなみ参加者にはホットチョコレートがふるまわれました。



ミュージアムカフェの様子

第2回（3月1日）のミュージアムカフェは麦のお菓子（小豆ねじ）と麦茶など、企画展「麦

の国さいたま」にちなんだメニューでした。テーマは「全国いろいろ博物館」です。日本には博物館に類する施設を含めると5,771の博物館があります。博物館の協会である日本博物館協会により表彰された博物館のほか、断層、埋没した樹木、遺跡、古民家をそのまま保存して公開している博物館、小さいながらも地域とともに頑張っている博物館、収蔵庫を公開している博物館、廃校になった学校を活用した博物館など、日本各地の素晴らしい博物館を紹介しました。

最後に参加者からの疑問に答える形で話題提供を締めくくりました。今回は「はく製はどうつくるの」です。話題にしたのは20世紀初頭のはく製師のカール・エークリーです。彼は従来の綿を詰めて剥製をつくる方法を改良し、マネキンをもとにする方法を開発し、生き生きとした動物の生態を再現しました。その成功例がニューヨークのアメリカ自然史博物館のジオラマ展示です。この方法はその後の博物館展示の模範となりました。

ミュージアムカフェの後半は学芸員による展示解説です。前半の博物館の話題を踏まえて、実際にかわはくの展示を見てもらいます。第1回目は常設展示を、第2回目は企画展を解説しました。

各地の博物館は文化を育て、継承する活動を目指して日々工夫と努力をしています。参加者にとってミュージアムカフェを通じて博物館は何をしているのか、何のために活動しているのかを理解する機会になれば幸いです。



企画展「麦の国さいたま」の展示解説の様子

（館長 小川義和）



## 学芸員コラム

# 堤防はあって当たり前モノ?!

「水害(洪水)から私たちの生活を守ってくれているモノといえば、何ですか」と聞かれた時に、まず頭に思い浮かべるものといえば何でしょうか?

「ダム?」それとも「堤防?」……もちろん他のモノを思い浮かべる方もいらっしゃると思います。私は当館に勤務するようになってから、川について調べ、自分で調べた内容を来館者の方に発信してきました。

その中で最も多くの反響があったといえるものの1つが、小高い丘のようにも見える、あの立派な堤防が整備されている荒川ですら、まだ堤防が整備されていない区間があるということを説明した時です。

堤防は整備されていて当たり前のように感じますが、実際は整備されていない区間も多々あり、仮に整備されていたとしても、江戸時代に整備された堤防が未だ現役で活躍している場所も少なくありません。

県内では、令和元年東日本台風に代表されるような近年の水害を受け、現在さまざまな河川で堤防の整備が進められています。既存の堤防をより高く、大きくしている場所、堤防がなかった区間に一から堤防を整備している場所など、つつい「あって当たり前モノ」として捉えがちな堤防を、まさに「必死」で整備していると言えます。

来年度、当館では近年の水害の被災地を訪ね、水害後どんな変化があったのかを現地で学ぶ企画を準備中です。よろしければご参加ください。



越辺川右岸側で整備中の堤防(毛呂山町内で令和7年1月に撮影)  
(学芸グループ 羽田武朗)

## 学芸員コラム

# カビもプランクトン?! 水中で不思議な胞子をつくるカビ

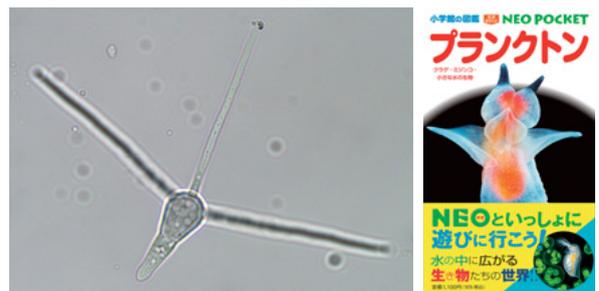
プランクトンは、ミジンコや藻類などの「海や川の水にすむ、とても小さな生きもの」というイメージがありますが、実は大きさによって定義されるものではありません。

「水の流れに逆らわずにただよう生きもの」を総じてプランクトンと呼ぶため、クラゲなどの大きな生きものも含まれます。また、魚類やタコ・イカなども、生まれてしばらくは泳ぐ力が弱く、プランクトンとして生活しています。

プランクトンと呼ばれる生きものは、動物はもちろん、緑藻や珪藻などの植物のなかまのほかに、菌類や細菌類に至る幅広いグループに分けられます。本コラムでは、「水生菌類」と呼ばれる、水の中にくらす菌類のプランクトンをご紹介します。

水生菌類はカビのなかまで、河川など水の流れのある場所で不思議な形の胞子をつくります。こうした形の胞子は水泡にくっつきやすく、水面に浮きながら流され、遠くへと運ばれます。

現在、日本では80種ほどが知られていますが、きのこのように図鑑等で紹介されることはないため、一般的な知名度はありません。しかし、昨年(2024年)より発売の、小学館の図鑑NEO POCKETシリーズ『プランクトン』では、数種ですが川や海の水生菌類が取り上げられています。本書は、かわはくのお土産コーナーでもお買い求めいただけます。菌類の多様な生き方に興味を持っていたら幸いです。



水生菌の胞子(左)と小学館の図鑑NEO POCKET(右)

(学芸グループ 板垣ひより)

### 4月

2/8/土～5/6/火 振休

春期企画展「麦の国さいたま」

5/土

かわはくで緑に親しむ「木を切ってみよう！」

時間：①11:00～12:00 ②13:30～14:30

費用：500円 定員：各回20名 ☾

内容：講師の指導のもとで、丸太を切る体験をします。

13/日 企画展関連「展示解説」

時間：①11:30～ ②14:00～

内容：展示担当の学芸員が解説します。

かわはく研究室「オタマジャクシを観察しよう」

時間：13:30～15:30

内容：早春に産卵するカエルのオタマジャクシを観察します。

20/日 かわはくであそぼう・まなぼう「草笛であそぼう」

時間：13:30～15:30

費用：200円 定員：各回10名 ☾

内容：身近な植物で草笛を作って遊びます。

かわはく季節のイベント「かわはくサクラWALK」

時間：9:00～17:00

内容：3/20からの1カ月間、園内のサクラを巡るスタンプラリーを開催します。

26/土 かわはく体験教室

「ケイソウペーパークラフトを作ろう」

時間：①10:00～11:30 ②13:30～15:00

費用：200円 定員：各回10名 ☾

内容：水の中の小さな生きもの「珪藻」を顕微鏡で観察し、ペーパークラフトを作ります。

荒川ゼミナールⅠ「あの被災地は今…

～令和元年東日本台風の被災地を再訪する①～」

時間：9:30～16:00

費用：300円（保険料）

定員：20名 ☾

内容：令和元年東日本台風の被災地の現状と変化を見学します。

27/日 スロープ展開連「かわはくの樹名板をつくろう！」

時間：①10:00～12:00 ②13:30～15:30

費用：300円 定員：各回20名 ☾

内容：園内の樹木に設置するオリジナルの樹名板をつくります。

29/火祝 企画展関連「展示解説」

時間：①11:30～ ②14:00～

内容：展示担当の学芸員が解説します。

スロープ展開連「かわはく樹木ラリー！」

時間：10:00～16:00

内容：樹木について学べるクイズラリーです。

### 5月

5/24/土～6/22/日

東京藝術大学学生による「河川・水系」作品展

3/土祝～5/月祝

かわはくGWイベント

時間：10:00～16:00

内容：楽しいイベントをたくさん予定しています。

5/月祝 かわはくであそぼう・まなぼう

「ストーンペインティング」

時間：13:30～15:30

内容：地質の日を記念して、荒川の石に絵を描きます。

17/土

かわはく体験教室「光る！泥だんごづくり」

時間：13:30～15:30

費用：200円 定員：15名 ☾

内容：荒川沿いで採れる荒木田土を使って光る泥だんごを作ります。

18/日

かわはく研究室「顕微鏡でケイソウを観察しよう」

時間：13:30～15:30

内容：生きたケイソウや珪藻土を顕微鏡で観察します。

荒川ゼミナールⅡ「秩父往還の旧峠 釜伏峠を歩く」

時間：9:00～16:00

費用：300円（保険料） 定員：20名 ☾

内容：歴史を学びながら釜伏峠を越える秩父入りのルートを辿ります。

### 6月

7/土

かわはく体験教室「蚕にえさをやってみよう」

時間：①10:30～12:00 ②13:30～15:00

費用：100円

定員：各回20名 ☾

内容：蚕の飼い方をレクチャーして、家庭で育てます。

8/日

かわはくであそぼう・まなぼう「水質しらべ」

時間：①10:30～12:00 ②13:00～15:00

内容：環境の日を記念して、水質検査を体験します。

かわはくで緑に親しむ「木のおもちゃづくり」

時間：①10:30～12:30 ②13:30～15:30

費用：5,000円

定員：各回6名 ☾

内容：県の木材（ヒノキやコナラ）を使ってモビールを作ります。

15/日

かわはく研究室

「田んぼの小さな生きものを観察しよう」

時間：13:30～15:30

内容：ミジンコ類や水生昆虫など水の小さな生きものを顕微鏡で観察します。

### 7月

7/12/土～9/15/火祝

特別展

「昆虫いろいろ～標本から見える昆虫の世界～」

6/日

かわはくであそぼう・まなぼう

「七夕かざりづくり」

時間：①10:00～11:30 ②13:00～15:00

内容：川の日を記念して七夕かざりを笹に飾ります。

13/日

特別展開連「昆虫観察会① 水生昆虫編」

時間：10:00～12:00

費用：100円 定員：15名 ☾

内容：園内を流れる水路で水生昆虫を探します。

19/土

かわはく体験教室「竹の水鉄砲づくり」

時間：13:30～15:30

費用：300円 定員：15名 ☾

内容：園内の竹で水鉄砲を作って水遊びします。

20/日

かわはく研究室「土の中の生きもの」

時間：13:30～15:30

内容：土を採取し、土の中の生きものを観察します。

ホームページでも紹介しています！

<https://www.river-museum.jp>

【お願い】①イベントは諸事情により変更になることもあります。ご了承下さい。②☾印のついた行事は事前申し込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベント開催日の2日前までです。③定員になり次第締め切ります。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地

TEL/048-581-8739 (学芸グループ) FAX/048-581-7332

ホームページのフォームからもお問い合わせいただけます。

<https://www.river-museum.jp>または「かわはく」で検索

X (旧Twitter) でもイベントの配信を行っています。

かわはく HP トップページQRコードはこちら ⇒

2025年3月31日発行

